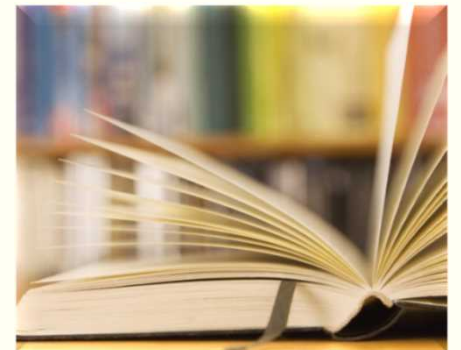


hue



ゲーミング手法による「自殺対策カード学習」

北海道教育大学教職大学院
井門正美



自殺対策カード学習について

本研究は、科学技術融合振興財団の助成金による研究「『自殺防止ゲーミング』の開発と実践—ネットゲームとボードゲームによる自殺問題への挑戦—」を主軸とし、これに厚生労働科学研究費補助金「学際的・国際的アプローチによる自殺総合対策の新たな政策展開に関する研究」（代表本橋豊氏・自殺総合対策推進センター長）との連携研究、そして、北海道教育大学教職大学院の組織的研究と連携して進めた。当初の研究テーマは、「自殺防止ゲーミング」としていたが、本橋氏と共同研究する中で、今日では、「自殺」という文言が「自死」に、また「自殺防止」という文言が「自殺対策」、「自殺遺族」が「自死遺族」に換言されている状況下においては、「自殺防止ゲーミング」という研究テーマ(ゲーミング名)についても変更し「自殺対策カード学習」とした。その上で、筆者自身が安易に自殺対策に関するゲーミング開発を行うのではなく、この深刻で喫緊の自殺問題に対する内容研究と対策を研究基盤とすることとした。

また、自殺対策は「生きることの包括的支援」として実施されることが明確に規定されたことから、筆者は教育研究の立場から、自殺対策について総合的な教育・学習を構想し、その中に、「自殺カード学習」を位置付けることが重要だと判断した。

特に、筆者の本務校である北海道教育大学教職大学院の組織的研究として「命の教育プロジェクト」を開始して、本研究もこの組織的研究に位置付けて展開した。

「命の教育」プロジェクトの目的

教育の問題状況

いま、学校関係者の様々な努力にもかかわらず、子どもたちの自尊感情の低さ、他者への思いやりや倫理観の欠如が問題視されています。いじめ、虐待やDV、自殺など、命に関わる問題が社会基盤を揺るがす大きな問題ともなっています。

教育の根幹

幼児、児童生徒、学生、大学院生、そして保護者に対して、命の大切さ、生きることの意味・意義を伝えることを改めて教育の根幹と捉えなければならない

本プロジェクトの目的

教育実践では、自殺は最も重いテーマで喫緊の課題だが、その自殺を生じさせる社会環境や教育環境、学校組織や教師そのものの在り方を問い直し、問題を改善することこそ、教育実践研究の根幹であると捉え、命を大切にし、生きることへの志向性を促進することをプロジェクトの目的とした。

「命の教育」プロジェクトの研究実践の柱

- ①人間形成と成長の基盤となる教育として、「心を育てる読書教育」
- ②日々の悩みや人間関係の軋轢等から自身を解放する「ストレスマネジメント教育」
- ③苦難やストレスに耐え立ち向かう「レジリエンス教育」
- ④保健衛生に留意し体づくりや健康を促進する「健康教育」
- ⑤自殺者を一人でも減少させる人間関係や社会基盤づくりを推進する自殺総合対策「命の教育」
(特に、SOSの出し方・気づき方教育、自殺対策学習)
- ⑥教職大学院講義と教員免許状更新講習への「命の教育」の組み込み

昨年(2016)10月から組織的に研究開始

現在、上記主要テーマに関する研究を進めている。

「命の教育」プロジェクトのホームページ

命の教育ホームページを開設 成果公開
(<https://www.ido-labo.com>)

命の教育プロジェクト

— 私たちの命を守り健やかな成長を促すために —

いま、学校における懸命な努力に関わらず、自ら命を絶つ児童生徒の問題が後を絶ちません。要因として、自尊感情の低さ、人間関係の希薄さ、他者への思いやりの欠如、いじめ、不登校、虐待・DVなど、命に関わる様々な問題が指摘されています。社会基盤を揺るがすこうした事態に鑑み、『命の教育プロジェクト』は、総合的な対策を具体的に考えていきます。

プロジェクト概要

- プロジェクトについて
- 組織図

心を育てる読書のススメ

- 読書で健やかな成長を促進する
- 図書紹介

3月末から公開

「命の教育2017シンポジウム」(2017. 3. 19)は、 「命の教育」プロジェクトの最初の事業

本シンポジウムの登壇者
基調講演 本橋豊先生

シンポジウム
○シンポジスト

阪中順子先生
今川洋子先生
上島 博先生
吉川和代先生
安川禎亮先生

○コーディネーター

○総括

反町吉秀先生

厚生労働科学 研究費補助金
「学際的・国際的アプローチによる自殺総合対策の新たな政策展開に関する研究」最終事業

命の教育2017シンポジウム
テーマ **自殺総合対策における「命の教育」**
— 生きる支援に向けたSOSの出し方教育 —

日時 2017(平成29)年 **3月19日** (日)
13時30分~16時30分 (開場13時)

会場 **ホテルポールスター札幌**
2階メヌエット
〒060-0004 札幌市中央区北4条西6丁目 TEL.011-241-9111

参加費 **無料** 事前にお申込みください

氏名、所属、連絡先を記入の上、下記に送付ください。
[e-mail] inochi.kyouiku@gmail.com
[FAX] 011-778-0614
(事務局：井門正美研究室)

① ま、学校における懸命な努力にも関わらず、自ら命を絶つ児童生徒の問題が後を絶ちません。要因として、自尊心の低さ、人間関係の希薄さ、他者への思いやりの欠如、いじめ、不登校、虐待・DVなど、命に関わる様々な問題が指摘されています。社会基盤を揺るがすこうした事態に鑑み、今回、特に自殺問題に対処する総合的な対策を具体的に考える「命の教育2017シンポジウム」を開催致します。

札幌駅
札幌市役所
北5条通
アスタール
ホテルポールスター札幌
北海道庁

プログラム

《総合司会》 梅 村 武 仁 (北海道教育大学教職大学院特任教授)

1 趣 旨 説 明 13時30分~13時40分 井 門 正 美 (北海道教育大学教職大学院教授・教職大学院院長)

2 基 調 講 演 13時40分~14時40分
「生きる支援に向けた児童生徒のSOSの出し方教育～国の政策の今後の方向性」
本 橋 豊 (自殺総合対策推進センター・センター長)

3 シンポジウム 14時45分~16時10分
《企画・司会者》 安 川 禎 亮 (北海道教育大学教職大学院教授)
《報告・討論者・議題提供者》 阪 中 順 子 (西天宮中学校SC、文部科学省児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議委員)
今 川 洋 子 (北海道深川保健所健康推進課長)
上 島 博 (元奈良県香芝市立五位堂小学校教諭)
吉 川 和 代 (奈良県五條市立宇智小学校教諭)

4 総 括 16時10分~16時30分 反 町 吉 秀 (自殺総合対策推進センター・地域連携推進室・室長)

北海道教育大学教職大学院・「命の教育」プロジェクトチーム | 自殺総合対策推進センター | 北海道教育委員会 札幌市教育委員会

自殺対策カード学習

自殺総合対策

- 自殺総合対策における「命の教育」の取組み
- 実践事例
- ゲートキーパーについて
- SOSの出し方・気づき方
- 自殺対策学習
- 命の教育関連機関

「自殺対策カード学習」は、「命の教育」プロジェクトのトップページに図のように設定されている。

このサイトは、⑤の教育内容を掲載しており、自殺に焦点化した自殺総合対策に関する教育内容を扱っている。特に、項目の5番目「自殺対策学習」の箇所が、「自殺対策カード学習」となっている。

①Yes/Noカード学習の初期画面

自殺対策学習

自殺対策Yes/Noカード学習

自殺対策Yes/Noカードの学習を始める



①カード学習のシステム

まず、カード学習のシステムの教育内容の分類は、次のようになっている。

- 1) ストレスマネジメント教育・学習
- 2) レジリエンス教育・学習
- 3) 健康教育・学習
- 4) ゲートキーパー教育・学習
- 5) SOSの出し方・気づき方教育・学習

②カード学習の展開

自殺対策Yes/Noカード学習

★ お名前を入力してください。

挑戦する!



左記の画面で学習者が氏名を入力し、「挑戦する」のバーナーをクリックする。

2) カード学習項目(教育内容)の選択
上記、1)～5)の項目のいずれかを選択して、Yes/Noカード学習を開始する。

自殺対策Yes/Noカード学習

レジリエンス編 1 / 10

質問

レジリエンスとは身近にある、ありふれた心の概念である。

YES

NO

学習項目におけるYes/Noカード学習の実際

－レジリエンス編－

学習項目として、レジリエンス編を選択したとする。第1問では図のように質問「レジリエンスとは身近にある、ありふれた心の概念である」が提示される。

学習者は、この質問に対して、YESかNOのいずれかをクリックする。

ここでは、YESをクリックしてみる。すると、カードの裏に当たる解答が示される。

自殺対策Yes/Noカード学習

レジリエンス編 1 / 10

質問

レジリエンスとは身近にある、ありふれた心の概念である。

答え: **YES**

解説を読む

自殺対策Yes/Noカード学習

レジリエンス編 1 / 10

質問

レジリエンスとは身近にある、ありふれた心の概念である。

答え: **YES**

解説を読む

左図のように解答が正答であると示される。

誤答だった場合には左図のように表示される。



解答を確認後に、「解説を読む」をクリックすると、下図のように解説が示される。学習者はこの解説を読んで学ぶことになる。

解説

Resilience（レジリエンス）とは、日本語で「回復力」「復元力」「適応力」と訳される。

レジリエンスの意味するものはとても広く、心の痛手からの回復力として、物理的に秩序を取り戻す能力や生命の再生力として、災害復旧や復興の力としてといった具合に、様々な分野で注目され使われている。

中でも、もっと早くから一般に研究が進んでいるのは、心理学やメンタルヘルス分野における心の作用として、「折れない心」や「逆境力」といった表現でレジリエンスについて語る。

答え：**NO**

解説を読む

結果発表へ >



最後の問題に解答すると「結果発表へ」が表示されるので、こちらをクリックすると、結果発表の頁に移行する。

レジリエンス編の10問への解答が終わると、最後に下図のような画面が示される。入力した氏名「〇〇さんの成績」として成績が示される。

自殺対策Yes/Noカード学習

さんの成績

10問中 **8**正解です。

このカード学習は、まだ、未完成である。カード学習の教育内容1)~5)については、すでにシステムの形式や成績処理の仕方については確立しているので、今後、最初に予定していた100問を作成したい。

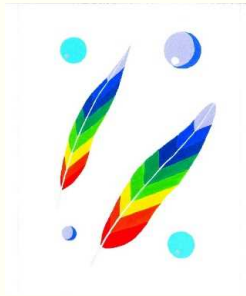
自殺対策カード学習の今後の展開

以上、「自殺防止ゲーミング」改め「自殺対策カード学習」に関する研究について紹介してきた。冒頭でも述べたように、本研究では、単なる自殺に関するゲーム開発を行うのではなく、自殺という社会的な深刻で喫緊な問題に教育研究として取り組むには、自殺問題や自殺対策に関する内容について総合的な視点から研究をしなければならないと判断した。

こうしたことから、自殺問題や自殺対策に関する内容研究に時間を要したこと、また、この内容に関する総合的な研究成果を自殺対策総合学習のカリキュラムとして構築(6本の柱の内①～⑤)したこと、さらに、これらの内容を「『命の教育』プロジェクト」のホームページ(<http://www.ido-labo.com/edu4life/>)として構築したことは、当初の研究計画とは大きく異なった。

以上のことから、本研究では、「自殺対策カード学習」のサイトにおける学習システムサーバーを構築することはできたが、学習コンテンツがまだ不十分である。現在も、1)ストレスマネジメント教育・学習、2)レジリエンス教育・学習、3)健康教育・学習、4)ゲートキーパー教育・学習、5)SOSの出し方・気づき方教育・学習の各項目に対応して学習コンテンツを増やしているところである。

最後になるが、研究助成をしていただいた科学技術融合振興財団に心より御礼申し上げます。



本日の参加者の皆様の忌憚のないご意見・
ご感想をうかがえたらと存じます。
どうぞよろしくお願いいたします。

ご静聴、有り難うございました。

井門

